

平成25年度 自己評価計画に対する中間評価結果

石川県立金沢辰巳丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
1 学習指導と進路指導の充実を図る。 個に応じた指導による基礎・基本の定着 確かな学力の増進 普通・芸術・外国語の各コースの特性を活かした進路指導の充実	① 年間を通して校内公開授業とし、授業研究を充実させて授業改善を促進する。また、年2回全教科共通のテーマで研究協議会を持ち、協議内容を全職員で共有する。	教務課 各教科	他教科の授業も含め、参観の機会が設けられているが、より積極的に参加し、各教科で研究協議会を適宜行い、授業改善に向けた検討を継続的に行うことが不可欠である。	【努力指標】 年間を通し積極的に授業参観を行う。また、各教科で研究授業や研究協議会等を実施し、授業改善へ向けた具体的な取組について検討する。なお、研究協議会等での成果や課題は全職員で共有する。	他の教員の授業を参観した回数が年間5回以上の教員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	B評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	年度末に最終集計するが、9月末時点で36.9%が5回以上実施している
	② 家庭での学習習慣の定着をねらいとする効果的な課題を与え、家庭学習時間を増加させる。	教務課 各学年 各教科	国数英を中心に週末課題を与えている。また、課題提出を評価に加え、学習時間の増加を図っているが、生徒個々の家庭学習時間は少ない。	【成果指標】 各教科で計画的に週末課題を含む課題を効果的に与え、その提出を徹底させて、家庭学習習慣を確立させる。	課題の提出率が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	9月実施の生徒アンケートでは69.6%であった。
	③ キャリア教育の充実とともに目標を明確化させ、有意義な高校生活を送るよう教育活動を行う。	進路指導課 各学年	2年次夏休みに実施したインターンシップ体験においては事前活動が十分とは言えなかった。受け入れ先の開拓とともに事前研究も充実させより効果的な取り組みとしたい。	【満足度指標】 本校でのキャリア教育が計画的かつ効果的に機能し、満足感を持っている。	本校でのキャリア教育が意義あるものとなっていると答える生徒の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	9月実施の生徒アンケートでは75.8%であった。
	④ 個人面談等を効果的に活用し、進路目標の明確な設定を図る。	進路指導課 各学年 各教科	生徒の約7割が具体的な進路目標を持っていると答えているが、そのための学習のプロセスが不明確な生徒が多い。	【満足度指標】 明確な進路目標をもち、その目標の達成にどのような学習活動が必要か理解している。	具体的な進路目標を持っている生徒の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	9月実施の生徒アンケートでは75.4%であった
2 基本的な生活習慣や倫理観を確立し、豊かな人間性や社会性を育成する。 遅刻や欠席の減少 きちんとした言葉遣いや挨拶などの礼儀指導 端正な服装容儀 規範意識の高揚 ボランティア精神や環境保護の精神の涵養	① 家庭との連携・協力を図りながら、服装、頭髪、化粧などの身だしなみ指導を全職員で行う。	生徒課 各学年	定期的な登校指導・服装検査の他に、終礼時等に、学年の正副担任による服装容儀検査を実施している。頭髪については、良くなっている。	【成果指標】 服装や頭髪などの身だしなみが人の「心を表す」ものであるという自覚を持ち、服装容儀に関する生徒心得を遵守している。	服装容儀について生徒心得を守っていると答える生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	9月実施の生徒アンケートでは91.5%であった
	② 全教職員で協力し、遅刻の減少を目指す。	生徒課 各学年	遅刻に関しては継続した厳しい指導をしているが、高校生としての自覚と基本的な生活習慣の改善が必要である。	【成果指標】 遅刻者数が前年度(663件)を100件以上下回ることを目指す。	年間の遅刻者の延べ人数が A 563人以下である B 613人以下である C 663人未満である D 663人以上である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	年度末に集計・評価するが、9月末時点で230人(昨年311名)であった。
	③ 人間としての在り方・生き方の自覚を深める教育を実施する。	教育相談室 各学年 各教科	生徒同士での人間関係のトラブルを予防するために、生徒に人間としての在り方・生き方を考えさせる取り組みを継続的に実践していくことが望ましい。	【満足度指標】 構成的グループエンカウンターやアサーション等を通して、人と人との接し方について理解し、人間関係づくりに役立つ。	構成的グループエンカウンターやアサーション等を通して、人と人との接し方について理解し、人間関係づくりに役立つ生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	9月実施の生徒アンケートでは68.1%であった

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
	④ 地域に根ざした学校づくりを推進するため、生徒会が中心になり奉仕活動を展開する。	生徒課 各学年	地域に根ざした奉仕活動の一環として地域清掃を行っていたが、ここ2, 3年回数が減っている。清掃以外にも地域のいろいろな方々と関われる奉仕活動を考えていきたい。	【努力指標】 年間を通して近隣地域での各種ボランティア活動に取り組み、ボランティアに対する意識を高める。	近隣地域での各種ボランティア活動に参加する生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	年度末に集計するが、9月実施の生徒アンケートでは36.9%であった
	⑤ 「学校版環境ISO」の取得校にふさわしいエコ活動を展開し、CO ₂ 排出の削減等を目指すとともに、環境保護の精神を培う。	保健 環境課	「学校版環境ISO」に基づき、本校の具体的数値目標の達成に向けて、エコ活動を正しく理解し、充実させる必要がある。	【成果指標】 生徒・教職員全体がエコ活動に積極的に取り組む。	エコ活動に積極的に取り組んだと答える生徒・教職員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	9月実施のアンケートでは、生徒78%、職員98%、総合で79%であった。
3 時代を生きぬく、積極的に活力のある人間の育成を図る。	① 1年生には全学部活動に参加するように促すなど、部活動を活性化させる。	生徒課 各学年	部活動の加入率は90%と高いが、実際に活動している生徒の割合が低い。さらなる充実感がえられるように活動内容の見直しを行い活性化を図る。	【努力指標】 部活動の加入者をさらに増やすとともに、実際に活動している生徒の割合を増やす。	部活動に加入している生徒で、実際に活動している生徒の割合が A 90%以上である B 85%以上である C 80%以上である D 80%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	前期末の調査では98.4%が積極的に活動していると回答
部活動の活性化 生徒会活動の活性化 健やかでたくましい心と体の育成	② 体力測定記録の更新を意識づけ、全学年を通した体力の向上を目指す。	体育科	運動への意欲の有無によって体力の差が大きくなっている。運動に対する意欲に欠ける生徒に対しての指導を強化していききたい。	【成果指標】 5月、1月にランニングロード(1周130m)男子20周、女子10周におけるタイム測定を行い、記録向上を目指す。	5月、1月のタイムを比較して、向上したものの割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	5月の調査では、男子平均12分41秒、女子平均7分46秒であった。
	③ 生徒一人ひとりが充実感・達成感の得られる生徒会行事を企画・運営する。	生徒課 各学年	新入生歓迎会・スポーツ大会・学園祭等の行事には、積極的に参加してはいるが、企画・運営面まで精力的に取り組んでいるとは言えない。	【満足度指標】 生徒会行事への参加が充実したものとなり、達成感が得られる。	行事終了後のアンケート調査で、充実感・達成感があったと答える生徒の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	行事後の生徒によるアンケート集計では平均92%が充実感・達成感を得られたと回答
4 生徒・保護者・地域から信頼される、開かれた学校づくりに努める。	① 地域及び小中学校等との交流活動や各種の情報紙等による広報活動を通して、本校の教育活動への理解と協力を促進する。	総務課 各コース	各コースの特性を活かした取り組みを充実発展させるとともに、特に普通コースの取り組みを積極的にアピールし外部に周知できる広報活動が求められる。	【努力指標】 各コースの特色を活かした地域や小中学校等との交流活動等に取り組み、その広報活動を強化する。	各種の交流活動が活発であり、その広報活動を通して学校の取り組みがよくわかると答える保護者の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	7月実施の保護者アンケートでは90.7%であった
広報活動の充実 開かれた学校づくりの取り組みの推進	② ホームページを刷新し、更新を定期的に行い、地域や小中学校等との交流や学校行事など、本校の特色ある教育活動を積極的に発信する。	総務課 各コース	ホームページの更新が滞り、多くの方々の関心を引くことができていない。トップページを初めとしてコンテンツに工夫を凝らし、魅力あるものに作りかえる必要がある。	【成果指標】 ホームページ全体の構成や内容を刷新するとともに情報の更新を速やかに行う。各コースの特色を活かした教育活動の取り組みがわかるように内容を順次改善する。	ホームページを通して学校の交流活動や教育活動に関する情報の発信が適切に行われ、わかりやすいと答える保護者の割合が A 80%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	7月実施の保護者アンケートでは78.2%であった